

図書館 時報

第128号
2023年
7月



怪談に
まつわる本
を紹介！

02-03 夏にピッタリ！
怪談特集

04-05 新任教員おすすめの本

06-07 図書館紹介

07 おしらせ
図書館ポスター
コンクール募集

08 ひととき 校長先生

夏にピッタリ！ 怪談特集



『怪談狩り 禍々しい家』
中山 市朗

建物を巡る実話怪談集

この本は中山市朗さんの怪談狩りシリーズの中の1冊で、中山さんが体験した家や建造物に関する怪談集です。1話ずつが短く、謎がはっきりと明かされないので余計に怖くなる、そんな話が多い1冊です。その中からひとつ紹介するのは「メリーさんの家」という話です。大分県にあるとされるメリーさんの館、その近くでは不可解なことが起こる。車のエンジンが急に止まったり、カーステレオが鳴り出したり。そんな噂を聞いた4人は館へと向かう。噂通りのことが起きる中、彼らがメリーさんの館で体験したことは…。

あらずじだけだとよくある怪談話のようですが、この話は後日談まで書かれていて、読んでいてとてもゾクゾクすること間違いなしです！また、この本には同一著者ほかによる『怪談百物語 新耳袋 第4夜 山の牧場』の後日談も収録されているので、気になる方はこちらも読んでみてください。実際に起こるかもしれない家にまつわる怪談、あなたもぜひ手に取ってみてください。

山本 真咲 (制御情報工学科2年)



『赤ずきん、旅の途中で
死体と出会う』
青柳 碧人

事件の謎に赤ずきんが挑む！

この本は、誰もが知っているような有名な童話をベースにしたミステリーになっています。主人公はバスケットを手に旅に出た「赤ずきん」です。今回の物語でもとになっている童話は、「シンデレラ」「ヘンゼルとグレーテル」「眠り姫」「マッチ売りの少女」です。皆さんも一度は読んだことがあるのではないのでしょうか。子供のころを思い出すような、それでいてちょっとゾッとするような、そんな面白い物語が4編収録されています。物語は基本1編で完結しますが、全編を通した大きな謎も隠されています。その童話にしか出てこない小道具を使ったトリックにも注目してみてください。童話を読んだことがある私たちがだからこそ、気づける何かがあるかもしれません。ぜひ手に取って見てはどうでしょうか。

森 悠七 (制御情報工学科2年)

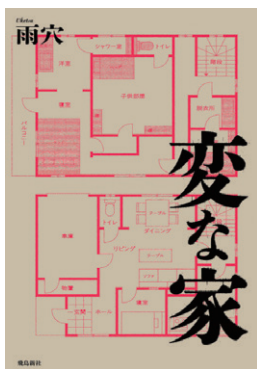


『小泉八雲
怪談奇談集(上)』
小泉八雲 森亮 他訳

異国人が伝え聞いた日本の怪談

著者の小泉八雲=ラフカディオ・ハーンは、1890年に日本に渡りました。彼は日本の伝承や民話、昔話などを英語でまとめ、日本の文化を外国へ広めた人物として知られています。この本には、そのような作品の中から、特に「怪談」を中心とした物語が集められています。「怪談」と言っても、現代まで人から人へ伝えられてきたもので、その物語の中には、昔の人からの教訓や日本人の心の有り様などがあり、とてもためになるお話もあります。この本に収録されている話の一つである「生神様」は、「稲村の火」として読んだことがある人もいないのではないのでしょうか。その他にも、「雪女」「耳なし芳一」など一度は聞いたことがある有名な作品もあります。知っているお話でも、もう一度読んでみると新たな発見があるかもしれません。

中村 羽菜 (制御情報工学科2年)



『変な家』雨穴

間取り図から見えるホラー

物語の舞台は、都内のとある中古一軒家。駅から近く、家の周辺には森林があり、緑に囲まれた環境。また、内装も開放的で明るい、どこにでもある、ごくありふれた物件、と、思っていたら…。謎の空間、窓が1つもない閉ざされた子供部屋、1階と2階に、1つずつ存在する浴室。

その家の間取り図には、そこかしこに「奇妙な違和感」が存在していた。そんな小さな違和感を知り合いの設計士と共に少しずつ紐解いていく。その違和感を、繋ぎ合わせて出てくる様々な憶測、膨らんでいく想像。間取りの謎をたどった先に見た、「事実」とは!?

YouTubeで1396万回以上再生された人気動画と、動画では明かされなかったさらなる続きが書籍化。読み始めたらずまらない!じわじわくる新感覚リアルホラー。

八鍬 青羽 (制御情報工学科2年)



『残穢』小野 不由美

土地に残る穢れとは…

2016年に映画化もされているホラー小説です。ドキュメンタリー風書かれていて、読者に日常と隣り合わせの恐怖を感じさせます。この本の怖さは、タイトルの由来にもなっている「土地に残る穢れ(けがれ)」。自分ではどうすることもできない怖さがあります。大きな怖い出来事は特に起きませんが、小さな怪奇現象などが起こり、それを調べていくうちにそれぞれの怪奇現象の点と点が繋がるミステリーのような側面もあります。

また、主人公が怪奇現象の謎を解明するために「穢れ」に触れていくと共に、不審電話や身体の不調があったりします。これらが偶然と言えば偶然なのですが、語り口や穢れが続いていることを考えれば、偶然で済ましていいものかと悩んでしまうような、どこか現実味を帯びた怖さを感じさせます。ミステリー小説が好きな方におすすめです。図書室にあるので皆さんも是非読んでみてください。

小島 雛乃 (物質工学科3年)



『花月夜綺譚』
岩井 志麻子 他9名

10人の女性作家による怪談集

私がおすすめるのは「花月夜綺譚」という本です。この本は江戸時代から昭和初期まで、さまざまな時代を舞台にした日本の怪談集です。現代の著名な10人の女性作家による書き下ろし短編集で、それぞれの作家の表現の雰囲気を楽しむことができます。本の装丁がとても綺麗で目に止まり、「花月夜奇譚」というタイトルが印象的だったのでこの本を手に取りました。

怪談集なので読む前はとて怖いのではないかと考えていたのですが、読んでみると少しゾクリとする程度の怖さで、あまり怖い話が得意ではない私でも、サクサクと読むことが出来ました。また、怪談を楽しむとともに、美しく幻想的な表現や世界観を楽しむことも出来ました。そんな中で、岩井志麻子著『溺死者の薔薇園』、花衣沙久羅著『一節切』、森奈津子著『長屋の幽霊』が特に印象に残りました。みなさんもぜひ手に取って読んでみてください。

藤井 葵 (物質工学科3年)



『山怪 山人が語る
不思議な話』田中 康弘

山で起こる不思議な体験談

日本の山には「何か」がいる。山で働き暮らす人の体験をまとめたこの本は、シリーズ化され四作ほど出ています。今回紹介する「山怪」は一作目です。

主に東北のマタギ達から聞いた不思議な話をそのまま書き留めたもので、オチや教訓はなく、ただ何かがいるかもしれない気配をひしひしと感ずることができる本です。一般的な怪談のようなうわあ、怖いとなるものではありませんが、不思議な感覚になったり、ゆっくり背筋をなぞられるような恐怖を感じます。

一作目は不思議や民俗学の側面が強いので、怖い話が苦手な方やちょっとぞくぞくとした方にお勧めです。しかし、より本格的な怪談を楽しみたいならば二作目、三作目の方がお勧めです。夏休みに山にハイキングやキャンプに行く方は、山怪を読んで山の何とも言えない気配を感じてみてはいかがでしょうか?

藤井 一花 (物質工学科3年)



新任教員

おすすめ

物質工学科
ふじばやし まさる 将
藤林



『USJを劇的に変えた、
たった1つの考え方』

森岡 毅
(角川書店)

一般科(英語科)
うきだ ともや 智也
浮田



うわっ……ファミコンのメモリ、少なすぎ……？



『ファミコンの驚くべき発想力
—限界を突破する技術に学べ—』

松浦 健一郎 (PCポケットカルチャー)

考え方の幅を広げよう！

今では、ハリウッドをはじめ、多種多様なイベントで人気を誇るユニバーサルスタジオジャパン(USJ)が、実は経営危機に陥っていたことを皆さんは知っていますか？この本では、どん底の状態から現在に至るまでのV字回復を実現したリアルな方法や考え方について、記述されています。特にこの本では、“マーケティング”に焦点が当てられています。宇部高専には経営情報学科もあり、マーケティングに興味をもつ学生も多いのではないのでしょうか。さらに今日の日本では学生がリーダーとなるベンチャー企業の支援も充実してきており、学生起業家も多くいます。経営情報学科のみに留まらず、自分の考え方や物事の捉え方を広げる機会として、この本を手にとっていただけることを期待しています。



ゲームの伝統を作った「機械的な制約」と数学的発想

皆さんゲームは好きでしょうか。私は名作も迷作もクソゲーも愛しています。そんなゲームの代表的なジャンルにRPGがありますよね。ドラクエやFF、ウィザードリイなど有名タイトルは数多くあります。ところが不思議なことに、その多くはパーティメンバーが最大4人となっています。皆さんもまた、もしも今ここでRPGを作れと言われたら、深い理由もなく4人パーティーのRPGをデザインするのではないのでしょうか。

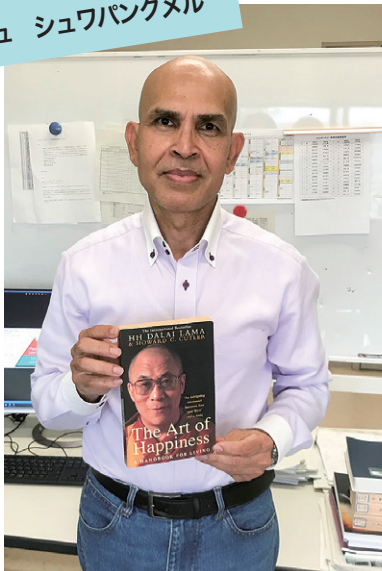
どうして4人なのかと言えば、初期のゲームの機械的な制約(メモリ容量)の為に、描写できるキャラクタ数が限られていたからです。こうして4人パーティーという伝統が生まれ、それは、機械的な制約をクリアした現代になっなお息づいているというわけです。

こうした「制約」によって生まれた伝統やビジュアルデザイン、呪文のネーミングなど、本著には神話的なゲームの生い立ちが記されています。それは、数学的な工夫や発想を武器に、制約という魔物に立ち向かう、人間の愛と勇気の冒険譚でもあります。ゲームやプログラミングが好きな人は是非ご一読ください。



本のめ

一般科
ゴーシュ シュワパンクメル



『The Art of Happiness (幸福の芸術)』
HH Dalai Lama and Howard C. Cutler
(Hodder and Stoughton)
(日本語訳『ダライ・ラマ こころの育て方』
ダライ・ラマ、ハワード・C・カトラー)

一般科(社会科)
やました だいま
山下 大喜



『新編 教えるということ』
大村 はま
(ちくま学芸文庫)

幸福は心の状態によって決まる

『The Art of Happiness (幸福の芸術)』は、ダライ・ラマの東洋の伝統的な精神とハワード・C・カトラー博士の西洋の視点を組み合わせた、自己啓発ガイドです。本書は人間の経験の重要な領域をカバーし、チベット仏教の原則を日常の問題に適用することで、人々がバランスを取り、精神および精神的に完全な自由を見つける方法を明らかにしています。例えば、幸福は外部の条件や状況、出来事よりも心の状態によって決まり、私たちの心と精神を体系的に訓練することで、達成できると説明しています。

ダライ・ラマはこの本の中で、より幸せな人生を送るための見解を述べています。また、カトラー博士による観察と解説によって、ダライ・ラマの思想が補強されています。『The Art of Happiness』は、ダライ・ラマの幸せな生活へのアプローチを理解するのに非常に役立つ本です。本書は15章に分かれており、それぞれが5つのセクションに分類されます。各セクションには、正しい生活のための重要な教訓が含まれています。



「学び」は「成長」への原動力

新年度が始まって、第1学期(1Q)も終わろうとしています。日々の授業でどのような「学び」がありましたか。

私は、これまで大学では教育学を担当してきました。教育学の授業のなかでも、カリキュラムの成り立ちや教育実践の改善を専門にしています。皆さんが1Qに受けた授業のなかにも、先生方の授業に対する「工夫」が多く散りばめられていたと思います。

皆さんからすれば、「学び」は「学校」のなかだけの話、卒業したら「大人」は「学んでいない」と思うかもしれませんが、実際にはそんなことはありません。「学び」は「成長」への原動力であり、「学び」の機会が普通の生活のなかに開かれています。大村はま『教えるということ』では、先生にとっての「学び」の大切さ、「研究」の大切さが書かれています。「教え手」は実は「学び手」でもあり、感受性豊かに「学び」・「研究」を積み重ねることで、「成長」していくことができます。

この学部高専では、地域連携や国際交流など、充実した機会が皆さんに開かれています。このチャンスを有効に活用し、「学び」にあふれたスクールライフをエンジョイしてください。そうすれば、10年後、20年後に、世界に開かれた「新しい景色」のもとでキャリアを切り拓いていけると思います。さあ、ラーニングフルな旅路に出かけましょう。応援しています。



写真：永安彩星、長谷川遼(ともに経営情報学科1年)

宇部
高専

図書館紹介

Introduction to the Library

チェック



開館時間

授業期間の平日 8:30 ~ 20:00
(3年生以下は18:15まで)

長期休業中 8:30 ~ 17:00

土曜・日曜 10:00 ~ 18:00

休館日等の詳細は、図書館HPの「開館スケジュール」をご覧ください。

貸出方法

借りたい本と「学生証」を、カウンターに提示してください。
また、「学生証」の貸し借りは絶対にしないでください。

図書

5冊を2週間

返却方法

図書館カウンターで返却してください。
閉館時は図書館入り口の返却ポストを利用してください。
図書は5冊を2週間、雑誌は10冊を3日間まで貸出できます。
令和5年4月3日から、学外者の利用を再開しました。

雑誌

10冊を3日間

閲覧コーナー



集中力
UP!

複数人で利用できる机や、一人で集中して使う机などが用意されています。こちらでは本を読んだり、勉強したりする学生が多く見られます。

リラクスクーナー



くつろいで利用できるソファや椅子を用意し、その周辺に学生に人気のある雑誌や漫画、ライトノベルなどを配架しています。

雑誌

漫画

ライト
ノベル



グループ学習室



ホワイトボードや持参の端末を接続するディスプレイを備えた部屋です。図書館の資料を活用したディスカッションやグループでの論文・レポートの作成、プレゼンの練習など、少人数グループが自主的な学習に利用できる場所です。

ブックリサイクルコーナー



こちらのコーナーは、図書館棟玄関ホールに設置しています。読まなくなった本や置き場所に困っている本などをこちらに持ち寄り、気に入った本を自由に持ち帰ることができます。新しい本との出会いの場として、ぜひ積極的に活用してください！

担当／松岡茉優(物質工学科4年)、小島萌百花(物質工学科4年)、藤村はる(制御情報工学科1年)

第5回

募集内容

図書館ポスターコンクール開催します

みんなが図書館を気持ちよく利用するためのポスターを募集します。
読書の楽しさや本を読んだ感想をポスターにして気持ちを伝えてみましょう。

- **対象者** 本科生、専攻科生、本校教職員
- **募集テーマ** 読書の楽しさ、読書感想画、図書館利用のマナー向上等
読書や図書館に関わること
- **応募方法** A4サイズ1枚を図書館カウンターに直接提出する。
デジタル・手書き可。写真をメインに使用したデザインも可。
下記の応募用紙をつけて提出。
- **募集締切** 令和5年10月20日(金) 17時
- **賞品** 最優秀賞1名 図書カード 5,000円分
※学生のみ 優秀賞 2名 図書カード 3,000円分
佳作(他数名) 図書カード 500円分

たくさんのご応募をお待ちしています。

ひととき

金寺 登 校長先生

——人生で役に立った本を聞かせてください。

私にとって一番役に立ったのは高専の教科書です。具体的には数学や専門書など、現在の学生たちが教科書として使っているものが一番役に立ちました。皆さんも卒業後、それぞれの分野で迷った時や困った時などに、きっと教科書が役に立つと思いますよ。

——心に強く残っている本、

影響を受けた本は何ですか。

本をたくさん読むわけではありませんが、印象に残っている本は、司馬遼太郎さんの『竜馬がゆく』や戸川さんの『小説吉田学校』です。これらの本は、歴史や政治の裏側が垣間見える内容で、印象に残っています。また、私は音声情報処理を専門としているため、研究関連の本もあります。その中でも『ゼロから作る Deep Learning シリーズ』がいい本です。この本は、単にツールとして使うのではなく、実際にどのような処理が行われているのかを理解し、サービスに振り回されることなく、効果的に活用するための本です。皆さんにはエンジニアとして、原理を理解した上で道具として使いこなしてほしいですね。図書館には専門分野の素晴らしい本がたくさんあるので、原理を理解し、なぜそうなるのかという疑問を大切にしてほしいと思います。

——座右の銘を教えてください。

座右の銘とまでは言えないですが、高杉晋作さんが言った「面白きこともなき世をおもしろく」という言葉があります。これは、どんなに面白くないことがあっても、面白く生きたり、前向きに捉えたりしようという考え方です。例えば、失敗して転んだとしても、今度気を付ければ大けがをせずに済むと思えば良い、といったイメージです。何事も前向きに捉え、失敗を恐れずに様々なことに挑戦してほしいと思っています。

——先生になろうと思われたきっかけは何ですか。

皆さんくらいの時に、様々なアルバイトをしました。その中で家庭教師をし、これが自分に合っているのではないかと感じました。また、私も皆さんと同じ高専生で、高専を卒業した後、大学、大学院へ進みました。その中で高専での経験が自分にとって一番ためになると感じたため、高専の先生になったという感じです。たまたま高専の先生が声を掛けてくださったというのもきっかけの一つです。

——宇部高専の印象について教えてください。

宇部高専はまず、第一期校であり、高専の中で最も歴史があります。先生方は、熱心で真面目な人が多い



という印象です。例えば、4月はじめに入学式が行われ、3月ぎりぎりまで熱心に目一杯頑張ってもらってる。他の高専と比べて、四学期制を採用していたりプロジェクト学習をたくさんやっていたり、地域教育にも力を入れていたりしています。国際交流には特に熱心に取り組んでいますね。また学生さんの中には、計画立てることが苦手な人もいるため、最初の授業などでしっかりサポートされています。先生方の努力に、学生たちも応えて頑張っている印象です。宇部高専には多くの特徴がありますので、その趣旨を理解して取り組むことで素晴らしい経験になるはずです。

——学生に向けたメッセージをお願いします。

本科生の皆さんには、普通に楽しく高専生活を送り、何の心配もなく卒業してほしいと思います。そのために、一つは相手の立場になって考えることが重要です。人間関係が悪くなると楽しくなくなり、続けていくことが難しくなってしまいます。二つ目は、計画を立てて実行することです。忙しくなるほど、計画を立てて取り組まないと時間が足りなくなってしまいます。社会に出れば、全てのことを完璧にはできません。完璧でなくても、上手く最低限のことを、優先順位をつけて処理する能力が求められます。

専攻科生には、専門の知識に加えて、他学科の人との交流も大切にしてほしいと思います。宇部高専の場合、他学科の人たちと様々な形で交流する機会があります。専攻科では、授業の中で共同プロジェクトを行いますので、他の分野の人たちの考え方を少しずつ理解してほしいと思います。例えば、車一台とっても機械の人は、構造的な視点から考えるでしょう。電気の人には、エネルギーの面から見るかもしれません。制御情報の人なら、車内のコンピュータの視点から考えるかもしれません。同じ対象でも、専門によって見方が全然違うんです。最終的な製品はいろんな人が集まったものづくりをするので、他分野の人の考え方を理解し、良好な関係を築くことが重要です。

取材・記事／藤井 一花（物質工学科3年）
岩崎千菜美（経営情報学科3年）